

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

(263)

今年、中学時代の同級生が逝去し同級生と一緒に弔問と連絡を取ったが卒業以来、一度も同級会を行ってこなかったためか賛同者が集まらず個人的な付

き合いで葬儀場へ。だが同級生の一人から「学生時代一緒に学んだ仲間として、英霊にお別れしたい」との声を聞きなせか胸が締め付けられる想いがよぎる。人との付き合いは、誠実な人間としての絆の積み重ねが大切と改めて心をよぎる。

10月下旬、白馬高校の同級会に参加。卒業以来50年近く、毎年一回も欠かさず同級会が企画され、出会うたびに青春時代の「情熱」や「苦悩」、一緒に歩んだ楽しい思い出が蘇る。その後の歩んだ各々の人生も皆、知る間柄でお互いの優しい眼差しが来年再会の糧

にもなっている。人間関係は、歳を重ねるとに限り、孤独な人生を迎えることが危惧される。だからこそ、なるべく健康で行動可能な時に、お互い顔が見える範囲の友人の

村間の交流は活発だが、退職するとほとんどの者が疎遠になってしまう。退職後も共通の課題も多く、連携を取らなくてはいけないのだが機会が限られるのも事実だ。人口減少

認識として自分達が住み続ける地域社会が明るく楽しい社会になってほしいと、お互い積極的に、交流し合い、楽しみたいとの気持ちが一人心よりから伝わってくる温かきを感じ

る。草津温泉の街並を散策、昼食での宴で美酒を酌み交わし、温泉の素晴らしさを満喫。年一回の企画だが、参加していると毎回出会う人とは、すっかり顔なじみに。大北地域で多くの企画によって交流が活発になる事が大切と、確信した楽しい一日でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

人との連携の絆を強くする為にも積極的に行事に参加してみませんか

ネットワーク作りが求められている。そのために、般に閉じこもらない人生の歩み方を続けて行ければと思う。

10月下旬、大北地域の市町村を退職したメンバーで草津温泉に旅する。在職中は、市町

時代を確実に迎える時代に、市町村で共通する行政実務は広域対応をますます求められていくのだろう。だからこそ退職後も大北地域の人材ネットワークはなくてはならない。と

じる日帰り旅行だ。旅行の数日前、志賀草津ルートは、降雪のため一時通行止めで心配されたが、当日は晴天に恵まれ、路肩には除雪した雪が残り、山々は紅葉に彩られ車中は楽しさで盛り上がり



草津温泉・湯畑を中心とした温泉街は訪れる度に時間を感じさせてくれる